

31. 介護福祉士の専門職性に関する研究

～主体的に学ぶキャリア形成過程に着目して～

○渡邊 泰夫 (箕面市立介護老人保健施設 一般職員)
浅井 ゆかり (吹田市介護老人保健施設 介護支援専門員)

【研究目的】

研究代表者は、これまで主体的に学ぶキャリア形成過程に着目し、介護福祉士が専門職として成長していくために求められる要因を質的調査によって明らかにした¹⁾。本研究では、質的調査によって得られた知見をもとに、量的調査を実施し、誰とどのようにふりかえることが介護福祉士の職業キャリア成熟に正の影響を与えるのか明らかにすることを目的とする。

【研究の必要性】

我が国は、少子化という人口減少局面の中、超高齢社会を乗り越えていくという社会問題を有している。これは、生産年齢人口が減少し続ける中で如何にして介護人材を確保するのか。また、単なる量的充足のみならず、如何にしてその質を確保し、向上させていくことが出来るのかという課題である。

このような社会的背景のもと、介護福祉実践家として活動している本研究の代表者は、同一の事業所内であっても介護職員のモチベーションには大きな格差があると実感している。即ち、上司の理解・同僚との人間関係・施設説明・ニーズ対応が仕事の満足度に大きな影響を与えることを明らかにした笠原を継承して²⁾、主体的に学ぶキャリア形成過程に着目し、介護福祉士が専門職として成長していくために求められる要因を明らかにすることが課題であると考えたのである。

本研究は、人材の確保に追われ危機的な状況も散見される介護の現場において、介護福祉の専門職性を明らかにするための基礎資料を得るという社会的意義があると考えられる。

【研究計画】

調査方法は、A介護福祉士会会員 809 名を対象に郵送法による自記式質問紙調査を 2018 年 4 月 17 日～5 月 2 日に行った。回収数は 150 票であり、回収率は 18.5%であった。また、調査項目に欠損がなく、現在も福祉関連の仕事に従事していると回答した 133 票（有効回答率 16.4%）を分析対象とした。調査項目は、対象者に関する事項として 12 項目、介護福祉のふりかえりに関する事項として 5 項目を設定した（表 1）。

表1 質問紙の構成

領域		変数
調査 項目	調査対象者に関する事項 (12)	性別、介護福祉士会加入年数、介護福祉士資格の取得方法、所属事業所における主な役割、主観的健康観、仕事以外のやりがい、ゆっくりした休日、生活の満足度、挑戦意欲、主観的遂行実績、将来の見通し、職業キャリア成熟度
	介護福祉のふりかえりに 関する事項 (5)	自分ひとりで行うふりかえり、同僚と個人的に行うふりかえり、日々のカンファレンスで行うふりかえり、職場外の仲間と行うふりかえり、職場内の研修会等で行うふりかえり

分析方法は、すべての項目で単純集計を行い、職業キャリア成熟度の中央値で職業キャリア成熟度高群と職業キャリア成熟度低群に分割し、仮説を「職業キャリア成熟度高群と職業キャリア成熟度低群では、介護福祉のふりかえりに差がある」と設定して t 検定を実施した。統計処理には IBM SPSS Statistic ver. 24 for Windows を用いて、有意水準は5%に設定した。倫理的配慮として、A介護福祉士会に対しての調査協力依頼を書面で行い、会長の同意を文書で得た。さらに、A介護福祉士会会員に対して調査協力依頼を書面で行い、依頼文書において、データは統計的に処理され、匿名性が確保されることを明記し、回答を拒否しても不利益を被ることはないこと、調査票の返送をもって承諾していただいたこととすることを明記した。

【実施内容・結果】

分析に用いた調査結果の単純集計を表に示す (表2)。“自分ひとりで行うふりかえり” “同僚と個人的に行うふりかえり” “日々のカンファレンスで行うふりかえり” の3項目は“している” “ときどきしている” が多数を占めたが、“職場外の仲間と行うふりかえり” “職場内の研修会等で行うふりかえり” の2項目は“あまりしていない” “していない” が多数を占めた。

表2-1 単純集計結果 n=133

調査対象者に関する事項			
		度数	(割合)
性別	男性	32	(24.1)
	女性	101	(75.9)
職業キャリア成熟度	高群	67	(50.4)
	低群	66	(49.6)

表2-2 単純集計結果 n=133

介護福祉のふりかえりに関する事項		度数	(割合)
自分ひとりで行うふりかえり	している	66	(49.6)
	ときどきしている	55	(41.4)
	あまりしていない	7	(5.3)
	していない	5	(3.8)
同僚と個人的に行うふりかえり	している	48	(36.1)
	ときどきしている	74	(55.6)
	あまりしていない	8	(6.0)
	していない	3	(2.3)
日々のカンファレンスで行うふりかえり	している	66	(49.6)
	ときどきしている	47	(35.3)
	あまりしていない	15	(11.3)
	していない	5	(3.8)
職場外の仲間で行うふりかえり	している	16	(12.0)
	ときどきしている	33	(24.8)
	あまりしていない	48	(36.1)
	していない	36	(27.1)
職場内の研修会等で行うふりかえり	している	18	(13.5)
	ときどきしている	47	(35.3)
	あまりしていない	33	(24.8)
	していない	35	(26.3)

職業キャリア成熟度を中央値で2分割し、高群と低群で平均値の差を比較した(表3)。“性別”の平均値は、低群に対して高群が0.5%水準で有意に高く、“同僚と個人的に行うふりか

えり” “職場外の仲間と行うふりかえり” の平均値は、低群に対して高群が 0.1%水準で有意に高かった。さらに、“職場内の研修会等で行うふりかえり” の平均値は、低群に対して高群が 0.01%水準で有意に高かった。

表3 職業キャリア成熟2区分別の平均値の比較 (t検定)

	低群 (n=66)	高群 (n=67)	t 値
性別 (女性=0)	平均値 0.15	0.32	2.42 *
自分ひとりで行うふりかえり	平均値 3.25	3.47	1.69
同僚と個人的に行うふりかえり	平均値 3.10	3.40	2.61 **
日々のカンファレンスで行うふりかえり	平均値 3.21	3.40	1.34
職場外の仲間と行うふりかえり	平均値 2.00	2.43	2.60 **
職場内の研修会等で行うふりかえり	平均値 2.06	2.65	3.52 ***

*P<0.05, **P<0.01, ***P<0.001

【考察と今後の課題】

松田と鈴木は、妻が中心となって家事を行い、妻がすべてできない場合に夫が家事の一部を支援するという現代夫婦の家事分担像を実証している³⁾。つまり、女性が職業に費やす時間を得難いことを示唆している。また、レイヴとウエンガーは、実践コミュニティにおける参加の在り方が継続的な学習の過程であると指摘している⁴⁾。そして、センゲは「共同して学ぶ方法をたえず学び続ける組織」を「学習する組織」と命名しており、そのような組織では組織メンバーを学習主体として尊重し、すべてのメンバーが知識や技能の取得に動機づけられていると論じている⁵⁾。このような先行研究の知見は、男性であること、同僚と個人的にふりかえることや職場外の仲間と行うふりかえること、職場内の研修会等でふりかえることが、職業キャリア成熟に正の影響を与えていた本研究結果を支持していると考えた。

研究の限界として、従属変数としてとらえた「職業キャリア成熟」は、坂柳による「成人キャリア成熟尺度 (ACMS)」の一領域であることに留意しなければならない⁶⁾。また、対象地域も一都道府県に限定していることから、本研究の結果を持ってただちに一般化することはできない。さらなる研究が求められる。

【謝辞】

本研究の実施に当たり、ご多用の中調査にご協力いただきましたA介護福祉士会およびA介護福祉士会会員の皆様に感謝申し上げます。また、大同生命厚生事業団様より貴重な研究助成を戴き感謝申し上げます。

【主たる参考文献】

- 1) 渡邊泰夫, 笠原幸子: 主体的に学ぶ介護福祉士の職業的アイデンティティ形成過程に関する研究, 四天王寺大学大学院研究論集, 12: 151-163 (2018).
- 2) 笠原幸子: 「介護福祉職の仕事の満足度」に関する一考察. 介護福祉学, 8(1): 36-42 (2001).
- 3) 松田茂樹・鈴木征男: 夫婦の労働時間と家事時間の関係—社会生活基本調査の個票データを用いた夫婦の家事時間の規定要因分析—. 家族社会学研究, 13(2): 73-84 (2002).
- 4) ジーン・レイブ, エティエンヌ・ウェンガー (訳 佐伯胖): 状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加—. 155-161 産業図書, 東京 (1993).
- 5) ピーター・M・センゲ (訳 守部信之): 最強組織の法則—新時代のチームワークとは何か—. 9-10, 徳間書店, 東京 (1995).
- 6) 坂柳恒夫: 成人キャリア成熟度 (ACMS) の信頼性と妥当性の検討. 愛知教育大学研究報告, 48(教育科学編): 115-122 (1999).

【経費使途明細】

使 途	金 額
調査票の印刷・郵送費用	160,000 円
調査票の封入作業に関する費用 (アルバイト賃金)	30,000 円
調査データの入力作業に関する費用 (アルバイト賃金)	100,000 円
会議費用(会議室貸室費用)	5,000 円
事前調査対象者(20人分)への謝礼(文具の購入費用)	5,000 円
専門的知識の提供に係る謝金	30,000 円
報告書作成に関する費用 (印刷代金)	100,000 円
合 計	430,000 円
大同生命厚生事業団助成金	300,000 円